



慶應義塾大学ビジネス・スクール

動くはずなのに動かない授業

5

教壇に立つ金田准教授を救うように、授業終了の時刻がきた。とりあえずホッとしたのは事実だが、残念さも隠せない複雑な気持ちのまま、金田は教室を後にした。

「おかしい。これはおかしい。動くはずなのに授業が動かない。何だ、これは。来週はどうなるのだろうか。」

10

金田は深く考え込みながら、視線を落として廊下を歩いていた。

セントラル経営大学院のチャレンジ

金田が教えているセントラル経営大学院は開校4年目の専門職大学院で、ほぼ100%が社会人学生、平均年齢は33歳。修士課程修了者にはMBA（経営学修士号）が授与される。ファカルティは高い研究業績を持つ研究者教員と実務家教員がほぼ同数で構成され、東京首都圏の社会人学生が、企業派遣や休職、あるいは退職して、真剣に経営を学ぶビジネススクールとして人気があった。MBA課程の授業は、平日月曜日から金曜日までの朝から夕方までぎっしりと組まれていた。

15

セントラル経営大学院では、今年度より新たなコースを開設していた。土曜日に単科コースを開設し、MBA課程の学生と単科で受講する学生で30名程度の混成クラスを3科目開講するというものである。

20

金田准教授が担当する「人的資源管理実践論」もそのうちのひとつで、人事制度の探求よりもむしろその運用上の創意工夫を扱うという点で、既存のMBA課程の授業と差別化されていた。経営学を体系的に学んでいるMBA課程学生と、人事管理実務の専門家である単科学生がお互いに学び合うという目的で開講され、授業シラバスには「授業方法はケースメソッド」と書かれて

25

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール博士・修士課程併設科目「ケースメソッド教授法特論」の教材とするために、非常勤講師 竹内伸一が作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 竹内伸一（2007年9月作成）